

2020 年度
学校教育における
即興型英語ディベートの推進・指導者育成
中間報告書

助成：公益財団法人 日本財団

2020 年 10 月

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）



目次

1. 研修会・地域交流大会・合宿・大会

1.1	PDA 東海交流大会 体験会（岡崎高校）	4月30日
1.2	PDA 東海交流大会 体験会（静岡高校・四日市高校）	4月30日
1.3	PDA 東海交流大会 体験会（岐阜高校）	5月1日
1.4	2020年度神奈川県教員研修(神奈川県教育委員会) 第1回英語4技能指導法研究グループ研究会	6月3日
1.5	PDA 東海公立高校即興型英語ディベート交流大会	6月13日
1.6	2020年度神奈川県教員研修(神奈川県教育委員会) 第2回英語4技能指導法研究グループ研究会	7月3日
1.7	PDA 四国交流大会 体験会（高松高校）	7月8日
1.8	PDA 青森県即興型英語ディベート交流大会	7月18日
1.9	PDA 関西交流大会 体験会（神戸高校）	7月28日
1.10	PDA 関西交流大会 体験会（堀川高校）	8月4日
1.11	PDA 関西交流大会 体験会（北野高校）	8月4日
1.12	PDA 関西交流大会 体験会（奈良高校）	8月5日
1.13	PDA 関西交流大会 体験会（膳所高校）	8月6日
1.14	PDA 関西交流大会 体験会（彦根東高校）	8月7日
1.15	PDA 全国高校即興型英語ディベート合宿・大会 2020	8月8日・9日
1.16	PDA 関西公立高校即興型英語ディベート交流大会	8月22日
1.17	2020年度神奈川県教員研修(神奈川県教育委員会) 第3回英語4技能指導法研究グループ研究会	9月2日
1.18	PDA 神奈川交流大会 体験会 （柏陽高校・希望ヶ丘高校・平塚江南高校）	9月12日
1.19	PDA 首都圏交流大会 体験会（船橋高校）	9月12日
1.20	PDA 首都圏交流大会 体験会（千葉高校）	9月14日
1.21	PDA 四国交流大会 体験会（松山東高校）	9月18日
1.22	PDA 神奈川交流大会 体験会 （横浜平沼高校、横須賀高校、横浜翠嵐高校、相模原高校）	9月19日
1.23	PDA 北海道即興型英語ディベート交流大会	9月21日
1.24	PDA 四国交流大会 体験会（徳島市立高校）	9月27日
1.25	PDA 首都圏交流大会 体験会（日比谷高校）	9月30日

1.1



PDA 愛知県立岡崎高等学校即興型英語ディベート 体験会

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

開催日時：2020年4月30日(木) 10:00-12:00

会場：遠隔開催 (zoom を使用)

参加者：生徒7名、教員3名 (ゲスト参加：神奈川県立相模原高校)

ジャッジ：PDA スタッフ

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、遠隔開催となりました。初めに、PDA スタッフより、zoom でのディベートの実施方法について簡単に説明が行われました。

いよいよ第1ラウンドの始まりです。15分の準備時間では、細かい定義について考えたり、相手が何を言ってくるかということ予想しながら自分たちのポイントについて考えたりしました。



ブレイクアウトルームに移ってチームごとに準備



堂々とスピーチを行います

ディベートが終わるとジャッジに積極的に質問する様子も見られました。

第2ラウンドの前に PDA 代表理事の中川より、POIに関するアドバイスがあり、全員で POI の練習を行いました。

続く第2ラウンドでは、第1ラウンドよりも複雑な論題でしたが、しっかりと現状分析をしたり、相手の話をよく聞いたレスポンスをしたりしながら活発に議論をすることができました。





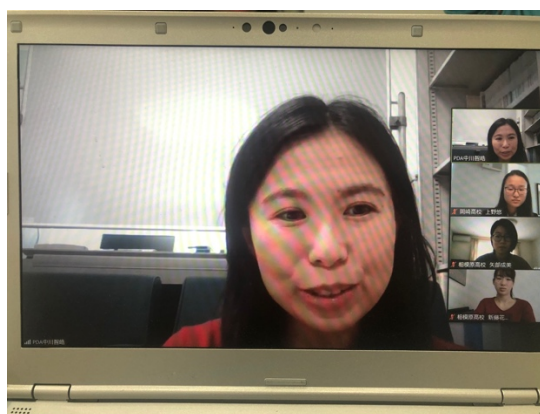
ディベートが終わるとエアークラッシュをしました

ディベートが終わると、第2ラウンドでベストディベーターに選ばれた生徒が「久々のディベートでしたが、普段通りにディベートすることができました。遠隔での実施は不安もありましたが、普段対面で行うときとほとんど変わらなかったです。ジャッジの先生からのコメントも勉強になり、参加してよかったです。」と感想を述べました。

また、PDA代表理事の中川より、「みなさんが働く頃には実際に会社などに行って働くのではなく、リモート化がより進んでいると思います。遠隔でも変わりなくできるという部分もあると思うので、オンラインでもディベートを頑張ってください。」と労いの言葉を述べ、体験会が終了しました。



生徒からの感想



PDA代表理事中川による挨拶

参加者の声（アンケートより抜粋）

・ディベートを久しぶりにできたし、とてもためになった。最近の時事問題についてもディベートすることができ、勉強になりました。とても貴重な機会をありがとうございました。（岡崎高校）

・具体的な個人コメントを頂けたり、他校の皆さんと一緒にすることが出来て楽しかったです。オンラインでも議論が今まで通り出来て、時事問題もやれてとても勉強になりました。（岡崎高校）

・実際にやるのと同じようにディベートできた。神奈川県和学校とディベートができたので貴重な体験になりました。インターネットでやるのは初めてで不安もありましたが、とても楽しくできたので良かったです。（岡崎高校）

・ためになりました。ありがとうございました。（岡崎高校 教員）

・久しぶりに他校と試合ができて、新しい視点などを知れて勉強になったからです。

また、岡崎高校は夏合宿でも対戦させていただいたチームなので、再会できてお互いの成長を感じることができました。このような状況の中、貴重な機会を設けていただいてありがとうございました。2ラウンド目のGOVのポイントが浮かばず、満足のいく試合にならなかったのもっと知識を増やしたり、いろいろな面から考えられるようにしたいと思いました。（相模原高校）

・外出自粛で人になかなか会えないなか、オンラインですが、顔を合わせて会話ができて楽しかったです。いつも固定されたメンバーでやっているけど、メンバーもポジションも変えてスピーチをできて学びがありました。オンラインということで、遠くの方ともディベートができて、楽しかったです。家で勉強するだけの毎日同じ生活をしている中で、ディベートができて、とてもいい息抜きになりました。また参加したいです。ありがとうございました。（相模原高校）

・いつもと違う人とディベートができるため、交流ができ、またディベートができることが普通に楽しい。この場を設けていただいてありがとうございます。家にいてもディベートができてとても有意義でした。また、フィードバックもたくさんもらってこれからの成長につながるとおもったので、またさんかしたいです。（相模原高校）

・他校の皆さんと練習することができて、実践的な練習になったからです。コロナウイルスが流行っていますが、遠隔のリモートを使って練習をできて良かったです。また参加したいです。よろしくお願いします。（相模原高校）

ベストディベーターに選ばれた皆さん

岡崎高校

■■■■ (2年)

■■■■ (2年)

相模原高校

■■■■ (1年)

1.2



PDA 静岡県立静岡高等学校・三重県立四日市高等学校 即興型英語ディベート 体験会

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

開催日時：2020年4月30日(木) 10:00-12:00

会場：遠隔開催 (zoom を使用)

参加者：81名 (生徒・教員)

ジャッジ：PDA 認定教育ジャッジ (青森県立五戸高校、神奈川県立相模原高校、神奈川県立相模原高校、兵庫県立千種高校)、PDA スタッフ

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、遠隔開催となりました。まず初めに、四日市高校校長の松岡泰之先生より、「新型コロナウイルス感染症の影響もあり、今年もこの体験会が実施できるか不安に思っていました。今年も実施することができ、また多くの生徒のみなさんが参加し、大変嬉しく思います。今回オンライン形式での実施ということで、参加するかどうか迷ったという人もいるかもしれませんが、やってみようと一歩を踏み出したその勇気をまずは讃えたいと思います。ぜひ充実した時間を過ごしてください。」とご挨拶がありました。次に、静岡高校校長の志村剛和先生より、“Hello, everyone. Thank you for joining PDA debate lesson by using online zoom meeting system. Let’s challenge and try to debate and learn how to think globally and how to debate each other. I think this lesson will be a good experience for you. After the lesson, I hope you will get a positive mind and will be a good debater.”と英語で激励のお言葉をいただきました。



四日市高校校長 松岡先生



静岡高校校長 志村先生

簡単に zoom を用いてのディベートの行い方について説明を終えると、いよいよ第1ラウンドの始まりです。英語でディベートをするのは今日が初めてだという人も多く、お互いにルールの確認をしながらディベートの準備を開始しました。



メインルームで論題発表



チームメイトとアイデアを出し合います

ディベートが始まると、緊張しながらも一生懸命にスピーチする様子が見られました。ディベートが終わるとお互いにエアークラップをして、健闘を讃え合いました。



堂々とスピーチを行います



ディベートが終わるとエアークラップをしました

続く第2ラウンドでは、第1ラウンドよりも複雑な論題でしたが、第1ラウンドでジャッジの先生からもらったアドバイスを活かしながら準備・ディベートを行いました。



楽しくディベートの準備を行います



聴衆を見ながらスピーチをします

ディベートが終わると、第2ラウンドでベストディベーターに選ばれた生徒が「英語ディベートは今日が初めてで、ルールもあまりわかっていない状態での参加でしたが、ディベートを実際する中でだんだん理解することができました。楽しかったです。」「自分の意

見を説明するのが精一杯で、第1ラウンドでは相手の話を聞いて反論することができなかったのですが、ジャッジの先生からのコメントを活かし、第2ラウンドでは反論をすることができました。成長を実感することができて嬉しいです。」「1回目はグダグダになってしまったけれど、2回目はすごく楽しくディベートすることができました。」「論点をずらさない、POIにチャレンジする、具体例を説明する、などの自分の中の目標を達成することができました。」と感想を述べました。

また、PDA理事の中川より、「みなさんが働く頃には実際に会社などに行って働くのではなく、リモート化がより進んでいると思います。遠隔でも変わりなくできるという部分もあると思うので、オンラインでもディベートを頑張ってください。」と労いの言葉を述べ、体験会が終了しました。



参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・グループで話し合い様々な意見を得られ、英語で話す経験をつむことができ楽しかった。（静岡高校）
- ・初めての体験でわからないこともありましたが、考えたことを伝えるということの大切さを改めて知ることができたので、よかったです。（四日市高校）
- ・1回目は中々うまくまとめて喋ることができなくて、負けてしまったけど、2回目は少し慣れて、勝利することができたので、嬉しかった。（四日市高校）
- ・同じことを伝えるにしても言い方、使う言葉などで伝わり方が変わると学ぶことができた。（静岡高校）
- ・普段はあまり英語で会話をする機会がないし、あっても簡単な短文だけで終わってしまいがちなので、英語で順序立てて議論する今回の体験は英語の力がつくのを実感することができてとても楽しかった。1ラウンド目の反省点を2ラウンド目にいかすことができてよかったです！参加する前は自分の意見を上手に表現できるか不安だったが、いざ参加してみると思っていたよりも英語で伝えることができて嬉しかった。（静岡高校）
- ・ディベートは飛び込むまでは少し怖かったが、やってみたらとても楽しかった上、英語力も論理的に考える力もついた気がした。（四日市高校）
- ・自分の英語力を話す力がどれぐらいかを気づく機会となり、もっと英語を話したい！！と強く思いました。（静岡高校）
- ・初めてで緊張しましたが、自分の意見に説得力を持たせるために考え、それを英語にするというのは楽しかったです。ベストディベーターにも選んでいただけ嬉しかったです。POIを躊躇ってしまったのですが、そこで言いたかったことを同チームの後のスピーカーが言ってくれて本当に安心しました。次はPOIにも挑戦したいです。（四日市高校）
- ・上手くは出来なかったが、考えて英語を話して相手に言いたいことが伝わっていると嬉しかった。（静岡高校）
- ・英語ですべてを話すことはとても難しかったです、両方の視点から物事を考え、それを英語で話すという体験が出来て良かったです。機会があればまた参加したいです！（四日市高校）
- ・今回は2回目の挑戦だったけれど、前回よりはしっかりと自分の意見が言えた気がする。チームのみんなもとてもしっかりしていたので、意見も言いやすかったし、きちんとまとめてくれる人がいて助かった。ただ、まだうまく意見をまとめきれないので、また挑戦したい！（静岡高校）
- ・本当に楽しかったです。昨年、1年生の時に2、3回ディベートに参加していてとても楽しかったので今年は学校がなくてできないのかなと残念に思っていたのでオンラインという形で参加できて大変嬉しかったです。開催していただきありがとうございます。まだまだ私は英語を話すのもディベートのテーマについて考えることも未熟なのでもっとうまくなりたいと今回

改めて思いました。また機会があれば是非参加したいです。ありがとうございました。(四日市高校)

・普段の英語の読み書きよりはるかに難しく自分に足りないものを発見できたとても有意義な時間でした。休校中ですけれど思い切って参加して本当に良かったと思います。(四日市高校)

・初めは緊張しすぎて、準備ができなくて、グダグダになってしまったけど、2回目はどうしたら説得できるか考えてスピーチ作成が出来て貴重な体験になったと思います。(四日市高校)

・時事ネタについてじっくり考えたり、ディベートの論点を捉えたりするのが楽しかったです。(静岡高校)

・何回やってもまだまだだけど、だからこそ終わりが無い成長を求めたいです。去年の自分の方がうまく話せたなとも思ったし、後輩の方がうまく話せていたりいて途中いら立ちとか焦りというか、複雑な気持ちになりました。でも今回参加したことで新たに得たことを忘れずにがんばりたいです。(静岡高校)

・初めてディベートをやって、最初のディベートでは自分の意見で必死で相手の意見をちゃんと聞いて返すことができなかった。2回目では相手の意見をちゃんと聞いて何か返すことを目標にしてやったら、ディベートが1回目より深まった感じがして楽しかった。今後機会があれば意見をさらに広げて話してみたい。(四日市高校)

・私はあまり英語を話すことや聞くことが得意ではないのですが、勇気を出して申し込んでよかったなと思える2時間となりました。初めは相手の意見を聞く余裕がなく、反論することができなかったのですが、ジャッジの先生にこんな私の発表でも良かった点をおっしゃっていただいたことで少し自信を持つことができ、第2ラウンドではもっと成長できるように頑張ろうという気持ちになれて、拙い英語ながらも反論をすることができ、今後の自分の自信にも繋がりました。このような機会に参加したことがなかったのでとても良い経験になりました。ありがとうございました。(四日市高校)

(教員の部)

・初めてのオンラインディベートが新鮮でした！いろんな視点からディベートにトライする姿がフレッシュに思えた！

・私も気付かなかった点を的確に英語で説明できている生徒を見て、自分も研鑽せねばと改めて思われました。

・この困難な時期にオンラインディベートを企画していただき、有難うございました。本校は1年生がたくさん参加しましたが、大きな自信となったと思います。

・初めてのオンラインでしたが、生徒たちは使いこなせていたと思います。自分の頭で考えて発表できて、濃い時間だったと思います。ありがとうございました。

・英語力だけでなくディベート力の向上にとっても興味がわきました。

・オンラインの教育利用の可能性の大きさを目の当たりにできました。生徒達の適応力には脱帽です。

1.3



PDA 岐阜県立岐阜高等学校即興型英語ディベート 体験会

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

開催日時：2020年5月1日(金) 13:00-15:00

会場：遠隔開催 (zoom を使用)

参加者：生徒 13 名、教員 3 名 (ゲスト参加：神奈川県立相模原高校)

ジャッジ：PDA 認定教育ジャッジ (神奈川県立相模原高校)、PDA スタッフ

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、遠隔開催となりました。初めに、岐阜県立岐阜高等学校校長折戸敏仁先生より、「今日はオンラインでのディベートです。ぜひ頑張ってください。」と激励のお言葉をいただきました。次に、PDA 代表理事による簡単な説明と POI の練習がありました。



岐阜高校校長 折戸先生によるご挨拶



PDA 代表理事中川による説明

POI の練習を終えるとよいよ第 1 ラウンドの始まりです。岐阜高校の生徒のほとんどが英語ディベートは今日が初めてということもあり、少し緊張した様子も見られましたが、楽しく準備、ディベートをすることができました。

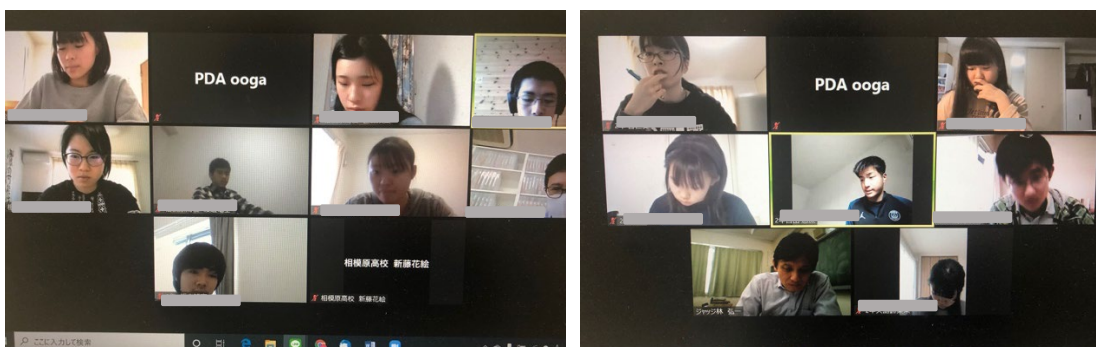


ディベートが終わるとエアー握手をしました

続く第2ラウンドでは、「**Local government should announce pachinko parlors that do not follow the self-restraint request for measures against coronavirus.**」(自治体はコロナウイルス対策のための自粛要請に従わないパチンコ店を公表すべきである。)」と昨今話題となっている時事問題ということもあり、第1ラウンドよりも難しい論題でしたが、準備時間では第1ラウンドでジャッジの先生から言われたコメントを活かしながらアイデアを出していきました。ディベートが始まると、準備していた話をするだけでなく、相手の話をしっかりと聞いて返答することができました。



ブレイクアウトルームでの準備時間



ディベート中の様子

ディベートが終わると、第2ラウンドでベストディベーターに選ばれた生徒が「英語ディベートをするのは初めてだったが、様々な表現などを学べてとても勉強になった。」「ジャッジの先生からたくさん知識を吸収することができ、これから活かしていこうと思った。」と感想を述べました。



感想を述べています

参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・自分では思い付かなかった考え方を知れた。考えをまとめて話すのが難しかった。（岐阜高校）
- ・英語で自分の意見を述べる機会が中々ないので、新鮮で楽しかったです。初めてだったこともあって拙い英語ではありましたが、楽しかったです。また参加する機会があれば参加したいです。ありがとうございました。（岐阜高校）
- ・私の学校ではディベート部員しかディベートに関わらないので、他の学校の意識の高さを知ることができてよかったです。（相模原高校）
- ・英語力がもっと必要だと改めて思いました。（岐阜高校）
- ・久しぶりに本格的なディベートができた。先生から今まで知らなかったテクニックを学べました。満足しています。（岐阜高校）
- ・チームで意見を話しあったり、相手の意見を聞いたりしながら自分の考えが深まり、楽しかったです。英語ディベートは初めてで緊張しました。決められた役割の中で考えて英語を話すことが難しかったので、これからはまた挑戦したいと思いました。（岐阜高校）
- ・新しい世界を見ることができた。知識が増えた。意見を聞いて表現するのは難しくと分かった。楽しかった。（岐阜高校）
- ・自分とは違う立場の人の意見を聞きながら、自分の意見を作っていくのが難しかったけれど、とても楽しかった。英語ディベートは初めてだったので、とても緊張しました。自分の意見をうまく伝えることはあまりできなかったけれど、ほかの参加者やジャッジの方たちから多くのことを吸収できたと思います。また、自分の意見を英語で話すのはとても楽しかったです。（岐阜高校）

ベストディベーターに選ばれた皆さん

■■■■■■■■■■ (岐阜 A)

■■■■■■■■■■ (岐阜 B)

■■■■■■■■■■ (岐阜 C)

■■■■■■■■■■ (岐阜 C)



2020 年度神奈川県教員研修(神奈川県教育委員会)
第 1 回英語 4 技能指導法研究グループ研究会

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

開催日時：2020 年 6 月 3 日 (水) 14:00-17:00

会場：オンライン開催(Zoom)

参加者：教員 45 名 (横浜翠嵐高等学校、横浜平沼高等学校、横浜緑ヶ丘高等学校、光陵高等学校、希望ヶ丘高等学校、川和高等学校、柏陽高等学校、多摩高等学校、横須賀高等学校、平塚江南高等学校、鎌倉高等学校、湘南高等学校、小田原高等学校、茅ヶ崎北陵高等学校、相模原高等学校、厚木高等学校、大和高等学校)

ジャッジ：PDA スタッフ、PDA 認定教育ジャッジ

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団
神奈川県教育委員会

緊急事態宣言は解除されたものの、未だ新型コロナウイルス感染症が問題視されている中、神奈川県教育委員会をはじめ、多くの先生のご尽力により、オンラインでの開催という形で昨年度に引き続き神奈川県教員研修を開催することができました。

はじめに、高校教育課指導主事である田村総子先生より、「今年度もさらに即興型英語ディベートの実践を積み、授業で共有して行ってください。」と激励のお言葉をいただきました。次に、学力向上進学重点校連絡会グローバル教育ワーキンググループ代表(神奈川県立柏陽高等学校校長)井坂秀一先生より、「この研修は、教育課と現場の校長が協力し、実現に至っています。45 名もの先生が参加しているのは非常に感慨深い思いです。ぜひ、この即興型英語ディベートをいろいろな形で活用して教育へ還元していただきたい。5 年目の本研修も素晴らしいものになるように期待しています。」とご挨拶いただきました。

その後、PDA 代表理事中川より、内容と表現の評価基準について解説を行いました。今回の研修では、ディベートをした際にルーブリックを用いて自己評価を行いました。



井坂校長先生によるご挨拶



ルーブリックを用いて自己評価を行います

参加している先生のうち、約半分の先生が即興型英語ディベートは初めてでしたが、事前にルールに関する動画を視聴し、ディベート実践に臨みました。今回の研修はディベートのラウンドを2回行い、ディベート実践だけでなく、ジャッジの実践も行われました。ジャッジ実践に割り当てられた先生は、ディベートの準備時間中に各チームがどのような意見を出すかを考え、ディベート中は司会進行やタイムキーパーを行い、ディベートが終わると、ジャッジ勝敗についてのコメントが行いました。



ディベート実践



ディベートが終わるとエア握手をします



第2ラウンドの前にPOI(質疑応答)の練習を行いました

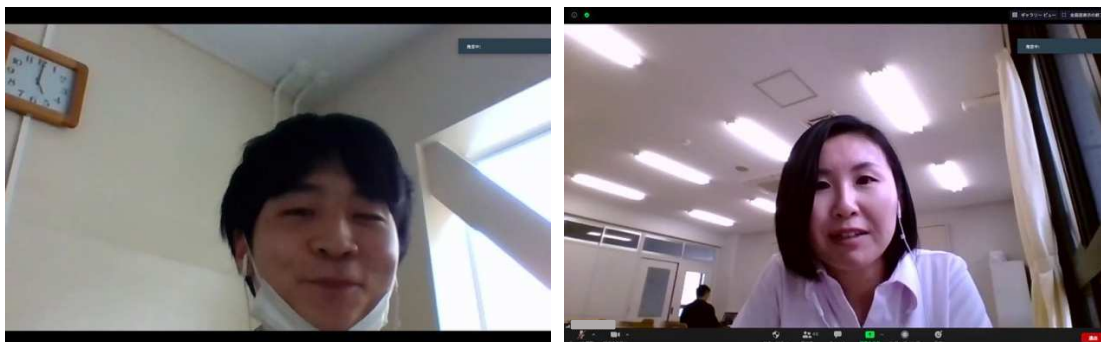


お互いの健闘を讃えてエア握手をします



ジャッジとして勝敗を説明しています

2回のディベート・ジャッジ実践を終えると、最後にベストディベーターやベストジャッジに選ばれた先生が「楽しかった。」「難しいと感じたがやってよかった。」と感想を述べました。



参加者の声（アンケートより抜粋）

- はじめてのディベートでまだまだつかみづらい部分が多いので、経験を重ねていきたい。
- 初めてだったので、ディベートの楽しさや難しさを感じた。また、他の先生方と交流しながら学べるのが良かった。ありがとうございました！また、よろしくお願いします。
- はじめにこの研修にした頃よりも、参加されている先生方のスキルが高くて驚きました。みなさんと高め合えるようにしていきたいです。
- 昨年度も参加させていただきましたが、昨年よりはだいぶ慣れた感じがしました。やはり実践あるのみだと感じています。今年度もよろしくお願いします。
- ディベートを指導するのが夢でしたので、今後もしっかりと研修を積み上げたいです。POIがあった時にどういう展開になるのか、経験ができなかったので次回ぜひにと思います。
- リーダーの経験者の方たちから、発言するときに盛り込むべきポイントや、より効果的な意見にするためのアドバイスをご丁寧に頂けたのでとても嬉しかったです。ぜひ次回にはより先生方に近づけるように、落ち着いて論だてられるように頑張りたいです。
- 初めての参加でしたが、学びが多かったです。今後も積極的に参加させていただきます。
- 生徒の気持ちになってディベートを分析することができた。（困難とか、メモの取り方とか）すごく楽しかったです。久しぶりに自分自身がディベートしたので緊張しました。

PDA 東海公立高校即興型英語ディベート交流大会

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2020年6月13日（土）10:30-14:30

会場：オンライン（Zoom）

参加校：愛知県立岡崎高等学校、岐阜県立岐阜高等学校、静岡県立静岡高等学校、三重県立四日市高等学校

参加者：48名（生徒・教員）、その他生徒見学者

ジャッジ：PDA 認定教育ジャッジ、神奈川県立相模原高等学校、熊本県立第二高等学校、長野県蓼科高等学校

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

体験会に参加した各校の生徒が一堂に会し、オンラインという形ではありますが、今年もPDA 東海公立高校即興型英語ディベート交流大会を開催することができました。初めに、岐阜高等学校の折戸校長先生より、「これからの新しい日常を作るのはみなさんです。持つ力を発揮して互いに切磋琢磨してください。また、高校生同士のネットワークづくりに励んでください。」とメッセージが送られました。

次に、PDA 代表理事の中川より、参加校の紹介やルールの復習、POI の練習などが行われました。



岐阜高校 折戸校長先生



POI の練習

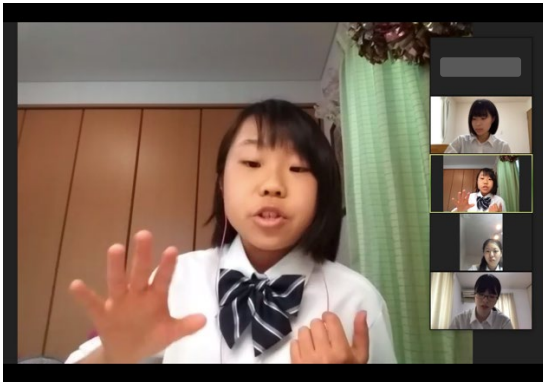
そしていよいよ、第1ラウンドの開始です。1ラウンド目の論題は「Fast food should be banned.（ファーストフードは禁止すべきだ。）」でした。準備時間になるとチームメイトと役割を決め、アイデアを共有し、作戦を練っていきました。ディベートでは、肥満などの健康被害や選択の自由などについて議論しました。POI が活発に交わされるテーブルも見られました。



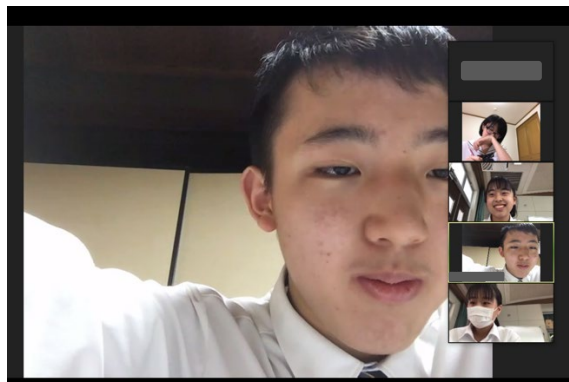
準備時間（静岡高校）



画面の向こうにいる聴衆へスピーチをします



1ラウンド目 四日市 vs 岐阜



1ラウンド目 四日市 vs 静岡



1ラウンド目 岡崎 vs 四日市



1ラウンド目 岐阜 vs 静岡

ラウンドが終わるとジャッジの先生のフィードバックを真剣に聞く様子が見られました。1 ラウンド目終了後、四日市高等学校の松岡校長先生よりご挨拶をいただきました。「ディベートが終わったあとに握手するのが良い。自分の役割を果たそうとする姿から意気込みを感じました。言いたいことが言えなかったもどかしさを感じている人もいるかもしれませんが、それをバネにして次も頑張ってください。」とエールを送りました。



ジャッジの先生よりフィードバック



四日市高校 松岡校長先生

1 ラウンド目が終わると、すぐさま2 ラウンド目が始まりました。2 ラウンド目の論題は「School summer holidays should be shortened. (学校の夏休みは短縮されるべきである。)」でした。夏休みがあると塾に行くことができない生徒や家で集中することが難しい生徒の観点や勉強の苦手なところや運動などを自分のペースでやりたい生徒の観点などから夏休みは長いほうがいいのか短いほうがいいのかについて議論しました。ディベートが終わると、お互いに意見交換をしたり、交流したりする様子がみられました。



2 ラウンド目 静岡 vs 四日市



2 ラウンド目 お互いに健闘をたたえ合います



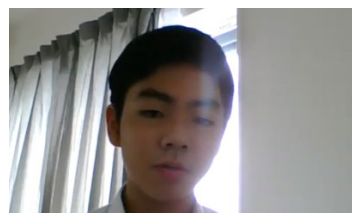
2 ラウンド目 四日市 vs 岐阜



2 ラウンド目 ラウンド後に握手をします

2 ラウンド目終了後は昼食時間です。オンラインという形ではありましたが、方言や分散登校の状況についてなど情報共有や意見交換を行いました。

昼食の後は、各高校から選抜された生徒 6 名によるエキシビジョンディベートです。論題は、「School events (sports festivals, cultural festivals, school excursions, etc.) should be canceled to prevent COVID-19 infection. (新型コロナウイルス感染症対策のため、各種学校行事(運動会、文化祭、修学旅行等)は中止すべきである。)」でした。生徒がいい思い出を残すためには中止したほうがよいのか、実施したほうがよいのか、自分たちの身の回りの例を挙げながら白熱した議論を展開しました。



エキシビジョンの様子

表彰が終わり、静岡高等学校志村校長先生からのメッセージを熊ヶ谷教頭先生からいただきました。「1日お疲れ様でした。以前参加した生徒が成長を感じて嬉しいと話していましたが、みなさんもきっと成長を感じたことと思います。私はこの交流大会で楽しみにしていることが2つあります。まず1つ目はみなさんのディベート活動の様子を見ることです。チームワークや英語で言いたいことが言えないもどかしさや緊張感など、即興型英語ディベートでしか味わえないものがあると思います。2つ目が論題です。いろいろな社会課題を扱っており、様々な観点から物事を考える必要があります。これからも頑張ってください。」と労いのお言葉をいただきました。

最後に、ベストディベーターに選ばれた生徒が「他の参加した生徒から学ぶものがとても多く、勉強になった1日だった。」と感想を述べ、3回目となるPDA 東海公立高校即興型英語ディベート交流大会が終了しました。



静岡高校 熊ヶ谷教頭先生



生徒の感想

【表彰】

〈エキシビジョンディベーター賞〉

- PM [redacted] さん (岡崎高校)
- LO [redacted] さん (岐阜高校)
- MG [redacted] さん (静岡高校)
- MO [redacted] さん (四日市高校)
- LOR [redacted] さん (静岡高校)
- PMR [redacted] さん (四日市高校)

〈チーム賞〉

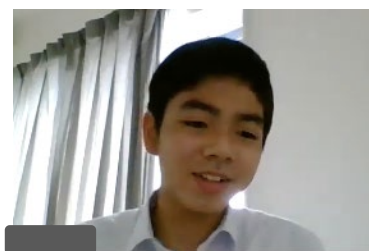
- 1位 静岡高校 A
- 2位 岡崎高校 A
- 3位 静岡高校 B
- 4位 岐阜高校 A
- 5位 岐阜高校 B
- 6位 四日市高校 A



1位 静岡 A へ賞状が授与されています



2位 岡崎 A



5位 岐阜 B



6位 四日市 A

〈ベストディベーター賞〉

- [REDACTED] (岡崎 A)
- [REDACTED] (静岡 A)
- [REDACTED] (静岡 A)
- [REDACTED] (岐阜 B)
- [REDACTED] (岐阜 A)
- [REDACTED] (四日市 C)
- [REDACTED] (四日市 C)
- [REDACTED] (四日市 B)
- [REDACTED] (四日市 A)

〈ベスト POI 賞〉

- [REDACTED] (岐阜 A)
- [REDACTED] (四日市 B)
- [REDACTED] (静岡 B)
- [REDACTED] (静岡 A)
- [REDACTED] (静岡 A)
- [REDACTED] (岐阜 B)

生徒の声（アンケートより抜粋）

- 少しずつですが自分の成長も感じられたので嬉しかったです。まだまだもっと上手になりたいです。【四日市】
- 正確なジャッジで納得できるところが大きく、たくさん勉強になりました！今後の論理的思考に役立てたいと思います！【静岡】
- 自分の意見を的確に伝えるには、相手の事を最優先に考えて話さなければいけないと思いました。【四日市】
- もっと英語の学習に励もうと思うきっかけになりました。ありがとうございました。【四日市】
- 難しい内容ですが一生懸命やれて嬉しいです。去年よりもうまくなっている感じがしてよかったです。【四日市】
- 昨年に引き続き参加させていただきました。オンラインだったのは仕方がないとはいえ残念でしたが、オンラインならではの難しさ、楽しさを感じることができました。エキシビジョンディベートにも参加させていただき、更にレベルの高い仲間、相手とディベートをすることができたのがとても嬉しかったです。自身の力不足も実感しましたが、それをプラスに変えてさらなるレベルアップを目指したいと思います。他校の方のディベートを聞くのも大きな楽しみでした。英語の流暢さだけでなく、論理の組み立て方や反論の仕方など、全ての試合がとても勉強になりました。参加できて本当に良かったです。ありがとうございました！【静岡】
- 先輩方とチームを組んだことで、チーム内で意見の矛盾を作らないことや代替案や反論の共有の重要性を再確認することができました。他の学校の先輩のスピーチの抑揚や強調の付け方も勉強になり、もっと上手にディベートをしたいという気持ちにさせられました【静岡】
- 他の人のディベートを聞いて、自分にはなかった切り口や見方を得ることができました。また、エキシビジョンディベートや講評を聞いて、いろいろなことを学びました。今後活かしていきたいです。【岐阜】
- 体験大会に比べてとてもレベルが高くて、皆さん凄くて、自分の未熟さを痛感しました。日本語で理由を立てるのも大変だし、それが英語で上手く伝わらないこともあって、もっと工夫が必要だと思いました。エキシビジョンは、スピードが早くて、ついていけませんでした。リスニング力というより語彙力が足りないので身につけたいと思いました。英語ディベートはとても楽しいし勉強になりました。あまりうまくできないのですが、またやってみたいです。【四日市】
- 自分のスピーチがチームの主張の補強に貢献できたと感じることができたと思ったからです。poiも相手の一貫性をつくきっかけになったことで、次のスピーカーに繋がられて嬉しかったです。【静岡】

- 様々な高校の方と交流することが出来たし、自分の知見が広がった。【岐阜】
- 違う高校の人たちと、一つの議題について、理解を深めることができたこと自体がとてもおもしろかったです！【岐阜】
- zoomでの参加はとても新鮮で楽しかったです。【岡崎】
- ジャッジの方のコメントがとても分かりやすかったです。どんなところを見ているのか、他の練習会や大会ではあまりわからなかったけれど、今日すごくハッキリしました。去年はじめて出たのですが、その時より喋れるようになり自信につながりました。【岡崎】
- ジャッジの先生方の的確なアドバイスと温かい勇気づけのおかげで、生徒たちがどんどん成長していきました。【教員】

2020 年度神奈川県教員研修(神奈川県教育委員会)

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

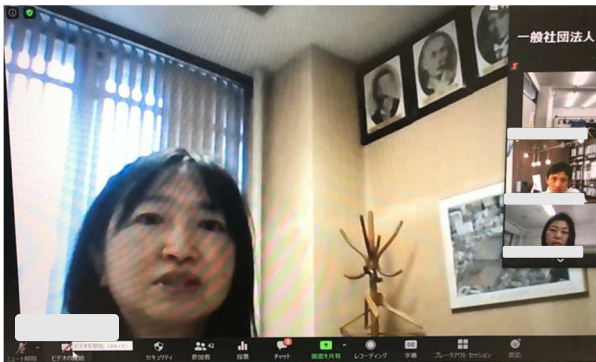
開催日時：2020 年 7 月 3 日 (水) 14:00-17:00

会場：オンライン開催(Zoom)

参加者：教員 45 名 (横浜翠嵐高等学校、横浜平沼高等学校、横浜緑ヶ丘高等学校、光陵高等学校、希望ヶ丘高等学校、川和高等学校、柏陽高等学校、多摩高等学校、横須賀高等学校、平塚江南高等学校、鎌倉高等学校、湘南高等学校、小田原高等学校、茅ヶ崎北陵高等学校、相模原高等学校、厚木高等学校、大和高等学校)

ジャッジ：PDA スタッフ、PDA 認定教育ジャッジ、東京大学
神奈川県教育委員会

はじめに、高校教育課指導主事である田村総子先生より、この研修の目的と激励のお言葉をいただきました。その後、PDA 代表理事中川より、ジャッジの仕方についてレクチャーが行われました。



田村先生によるご挨拶

3. 議論の比較

Government	Opposition
1. 宿題は生徒に負担 ・時間の無駄 ・他の好きなこと 2. 宿題は教員に負担 ・丸付けしんどい	1. 宿題で学力維持 ・家で勉強しない 2. 学習習慣

※GovとOppの主張を比較する

Handwritten notes on the slide:
 - Top right: 学力も大事
 - Right side: 学力だけが大事なわけではない (友達のコミュニケーション→スキルが社会で活きる)
 - Left side: 宿題のおかげで勉強できる
 - Middle left: 丸付けは教員の仕事
 - Middle right: 答えを写しているだけの場合も

ジャッジの仕方についてレクチャー

今回の研修では前回の研修同様、ディベートのラウンドを2回行い、ディベート実践だけでなく、ジャッジの実践も行われました。ジャッジ実践に割り当てられた教員は、ディベートの司会進行やタイムマネジメントに加え、今回のジャッジレクチャーをもとに勝敗を考え、勝敗の決定、勝敗の理由の説明を行いました。

また、ポイントの立て方・説明の仕方に関する動画を視聴するという課題を受け、ディベートをした教員は AREA (エリア：スピーチの構成のひとつ) を意識し、自分の主張や反論、再構築、まとめのなかで、理由や具体例をわかりやすく説明することができました。



第1ラウンドの様子



お互いの健闘を讃えてエア握手をします

第1ラウンドと第2ラウンドのあいだに、PDA 代表理事中川より、POI（質疑応答）と反論に関するレクチャーが行われました。第2ラウンドではレクチャーを活かし、効果的なPOIを行ったり、反論を行ったりする様子が見られました。



第2ラウンドの様子

また、今回の研修では、PDA 教育ジャッジ認定試験のディベート実技試験とジャッジ実技試験も実施されました。PDA 認定教育ジャッジとは、主に中学・高等学校の授業で即興型英語ディベートの教育的な指導ができる認定ジャッジのことです。単にディベートが上手い人ではなく、教育的配慮をもって生徒の学びやモチベーションを高められるジャッジができる人財のため、PDA 認定“教育”ジャッジと名付けられています。



ジャッジ実技試験の様子

参加者の声（アンケートより抜粋）

・少しずつ余裕を持ってディベートの流れを追うことができるようになってきた気がしています。オンラインでできるので移動時間がなくなり非常に助かります。今後も出来る限りオンライン上で研修を行なっていただきたいです。一回くらい実際に集まる日があってもいいとは思いますが。（鎌倉）

・ジャッジのかたのコメントが明瞭で良かったです。（横浜緑ヶ丘）

・初めて実際にディベートを行ってみて、難しさとともに面白さを味わうことができました。（広陵）

・具体例を加えて自分の意見を強くするよう心がけることが出来た。相手の意見を聞く際に頷いたり疑問を探したりしながら主体的に参加することが出来た。（光陵）

・初めての参加でしたが、学びが多かったです。今後も積極的に参加させていただきます。（厚木）

・ディベートの流れや構築の仕方が少し理解出来ました。（横須賀）

・相手のサインポストの理解が曖昧のまま、自分が話し始めてしまいました。POIで聞こうと思ったら、話が終わったので言い出せず、後悔が残りました。（相模原）

・練習するしかないとおもいます。（柏陽）

・あまり進歩がなくて、書きようがありません。すみません。ご説明いただくことはわかりますが、実際にできない、ということです。（平塚江南）

・ジャッジの仕方や、ディベートの持っていく方など、よくわかりました。回を重ねるごとに理解が深まっていくと思いますし、そうなるようがんばります。（鎌倉）

・いろいろや立場で経験できたので、生徒の気持ちをよく理解して授業に活かせると思いました。ありがとうございました。（横浜緑ヶ丘）

PDA 香川県立高松高等学校即興型英語ディベート 体験会

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

開催日時：2020年7月8日(水) 13:00-15:30

会場：香川県立高松高等学校 (Zoom を用いてオンライン開催)

参加者：生徒12名、教員2名

ジャッジ：PDA スタッフ、PDA 認定教育ジャッジ

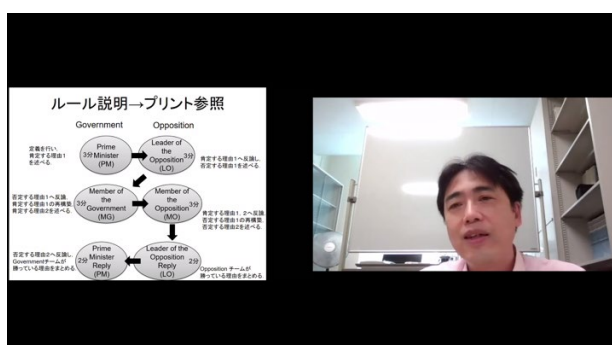
助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

はじめに、出射校長先生より、「このディベートには様々な魅力があります。中四国の交流大会や全国大会など他の高校の生徒と交流できるという点も魅力のひとつです。今日実際にディベートをすることで、ディベートの魅力を知っていただきたい。」とご挨拶いただきました。

次に、PDA ディベート推進委員長より、ルール説明、POI (point of information: ディベート中に質疑応答をリクエストするルール) の練習が行われました。



高松高校 出射校長先生



PDA によるルール説明



POI の練習

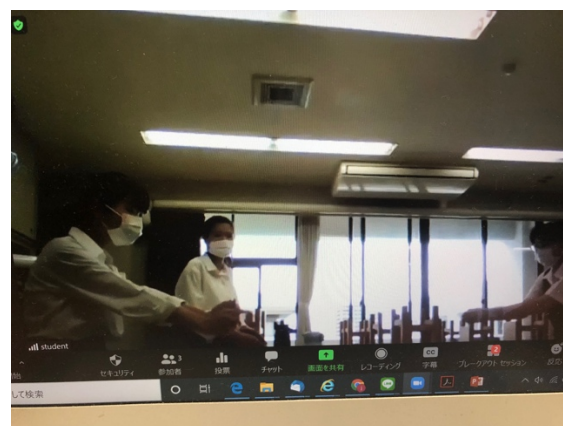
ルール説明が終わると、いよいよ第1ラウンドの始まりです。即興型英語ディベートをするのは今日が初めてだという生徒が大多数でしたが、堂々とスピーチを行いました。中には、早速 POI をし、質疑応答をする場面も見られました。ディベートが終わると、ジャッジによるフィードバックの時間です。勝敗だけでなく一人一人に良かった点と改善点に関するコメントが行われました。



聴衆を見て堂々とスピーチします



POI（質疑応答）を行なっています



ディベートが終わるとエア握手を交わしました

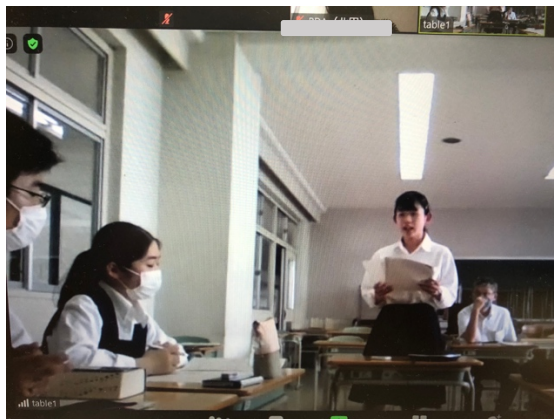


ディベートが終わると、「15分という準備時間を効果的に使うためにはどうしたらよいか」などジャッジへ質問する生徒もあり、次のラウンドへの意気込みを見せました。生徒たちは、「緊張したし、みんなの前で英語でスピーチをするのは恥ずかしかった。」「こう言いたい！ということは日本語では思いついているのに英語にできずもどかしい。」と第1ラウンドの感想を述べました。

第1ラウンドが終わると、第2ラウンドの開始です。理由を説明する、理由を複数説明してみる、重要性についても説明するなど第1ラウンドでジャッジから受けたフィードバックを早速活かし、ディベートを行いました。第2ラウンドでは第1ラウンドよりも活発にPOIが交わされ、お互いの意見をより深く理解しようと試みる様子が見られました。



ジェスチャーを効果的に使ってスピーチ



自信を持ってスピーチしています



画面の向こうにいるジャッジに向かってスピーチをしています

ディベートが終わり、ベストディベーターに選ばれた生徒は、「ベストディベーターに選ばれたことが嬉しい。また頑張りたい。」「すごく楽しかった。成長を感じる。またやりたい。」

高松高校の出射校長先生より「回数を積み重ねれば積むほど成長します。どれくらい日頃から社会問題について考えているのかということも重要です。ぜひ広く勉強し、交流大会や全国大会、世界交流大会を目指して頑張ってください。」と激励のメッセージをいただき、高松高校の体験会は幕を閉じました。



高松高校 出射校長先生

参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・全国大会目指せるくらいに練習して上達したいと思います！頑張ります！
- ・改めてとても難しいと感じた。初めてに近かったので、全然できなかったが経験を積んで上手くできるようにしたい。
- ・ジャッジの方に本格的にスピーチを見てもらえて自分の課題がよく分かりました。よかったです。
- ・説明や英語力における自分の強化すべき点が明確になった。このディベートは何回も継続してやらなければ、劣等感に苛まれるだけで成長することができないと思う。週1回でも授業の最初に15分やれば良いと思う。
- ・英語を、使ってディベートするという新しい世界を知れた。自分の語彙の無さや、英語で、表現することの、難しさを知れた。もっと、練習と勉強をし続けたい。
- ・頭をフル回転させて考えるのは大変だけど相手の言っていることを理解できたり、自分の主張が相手にきちんと伝えられた時は嬉しく、達成感があった。始まる前は不安でやりたくないなという気持ちがあったけれどやってみるとディベートは奥が深くて意外と面白いかもしれないと思いました。1回目より2回目の方が上手くできたので慣れることが大事だと思いました。もっとディベートの力を伸ばしたいです。
- ・聞きとるのが特に難しかったです。たくさん練習を積んで上手くなりたいです。

ベストディベーターに選ばれた皆さん

■■■■ さん
■■■■ さん
■■■■■■ さん
■■■■ さん
■■■■ さん
■■■■ さん

ベスト POI に選ばれた皆さん

■■■■ さん
■■■■ さん



PDA 青森県即興型英語ディベート交流大会

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2020年7月18日（土）12:00-16:00

会場：オンライン（Zoom）

参加者：生徒38名、教員7名

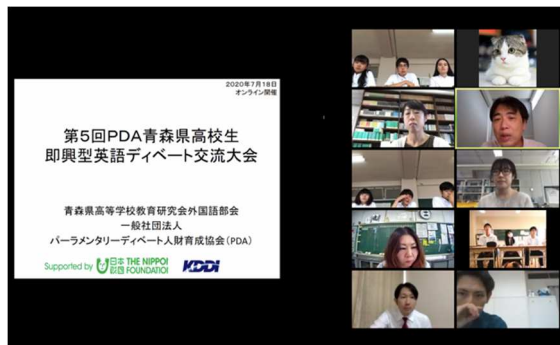
ジャッジ：青森県立青森南高等学校、青森県立青森高等学校、青森県立三戸高等学校、青森県立三本木農業高等学校、神奈川県立相模原高等学校

主催：青森県高等学校教育研究会外国語部会

共催：一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

はじめに、PDA ディベート推進委員長の大賀より、参加校の紹介、ジャッジを務める講師の紹介が行われました。次にPDA 代表理事の中川より「大学の授業は現在オンラインで行われています。オンラインでディスカッションをするということもよくあります。こういった活動をオンラインでしようとする、コミュニケーションを円滑にするために表情を豊かにする、わかりやすく頷くなどの工夫がより必要になります。今回はそういったオンラインならではの工夫にもトライしてみてください。」とメッセージが送られました。その後、POI（質疑応答のルール）の練習が行われました。



開会式の様子



POI の練習



PDA 代表理事 中川の挨拶

早速、第1ラウンドの開始です。論題は「Japan should make voting compulsory.（日本は投票を義務化すべきだ。）」でした。ディベートでは、日本の直面している少子高齢化の問題や、若者の政治に対する関心の低下、投票しない権利についてなど幅広い観点から議論が行われました。ディベートが終わると、お互いにエア握手を交わしました。



プレパレーションタイム



R1 青森 A VS 八戸 A



R1 青森南 B VS 青森明の星 C



ディベート後にエア握手



ジャッジの先生からのフィードバック

ジャッジの先生からコメントをもらうとすぐ2ラウンド目が始まりました。2ラウンド目の論題は「"Go To travel" campaign should be cancelled.. (Go To トラベル キャンペーンは中止されるべきだ。)」でした。最近よくニュースなどで耳にするホットなトピックです。生徒たちは、コロナウイルス感染症が広がるリスクと人の移動が無いことによる経済的ダメージのどちらが重要なのかなどについてディベートを行いました。



POI！（青森明の星 C VS 青森南 A）



POI！（八戸 A VS 青森明の星 A）



ディベート後のエア握手



R2 八戸聖ウルスラ学院



勝敗の発表（青森南 B VS 田名部）



ジャッジの先生からのフィードバック

2 ラウンド目が終わると、各高校から選抜された生徒 6 名によるエキシビジョンディベートです。論題は、「School summer holidays should be shortened. (学校の夏休みは短縮されるべきである。)」でした。見学の生徒もメモを取り、勝敗を出しました。夏休みに塾に通うことのできる生徒とそうでない生徒の学力差についてや、長い夏休みだからこそできることについてなどについて意見が飛び交い、白熱した議論となりました。



エキシビションディベートの様子

観戦した生徒も挙手でどちらが勝ったかを投票しました。その後、チーフジャッジの青森高校当麻先生より勝敗の発表がありました。今日のエキシビションディベートの勝者は **Opposition(否定側)** となりました。エキシビションディベートを行った生徒が、「難しかったがやりがいがあった」と感想を述べ、青森交流大会の幕を閉じました。



生徒による勝敗の投票



当麻先生によるコメント

生徒の声（アンケートより抜粋）

- 先輩方と同じステージでできたこと、相手と白熱したディベートをできたこと、ジャッチの先生にベストディベーターに選んでいただいたこと、そしてこうやってディベートをオンラインで、できたこと全てが嬉しく感謝をしたい。【青森】
- 青森県の高校の方と楽しくディベートすることができ、貴重な機会になりました。【八戸聖ウルスラ学院】
- 英語がうまくなりたくて参加しました。zoomだったので抑揚やジェスチャーができなくて残念でしたがもし実際にやることがあったらぜひ参加したいと思っています。ディベートの練習は学校でたった三日しかしませんでしたけど仲間とうまくできてよかったです。【八戸】
- 初めて参加してみて、意見をまとめるのが難しかったです、上手な人の意見の作り方が勉強になりました。これから授業などに活かすことが出来るような大会でした。ありがとうございました。【青森南】
- エキシビジョンマッチを見て、2年後に自分が同じようなレベルで英語を述べられるか不安になった。が！むしろ越してやろうくらいの勢いで頑張ろうとも思えた。時間を無駄にしないようにします。【青森南】
- 最初の方は緊張していたけど、2回目は喋ることができたと思うので良かったです。【青森】
- 初めて参加してみて、意見をまとめるのが難しかったです、上手な人の意見の作り方が勉強になりました。これから授業などに活かすことが出来るような大会でした。ありがとうございました。【青森南】
- 難しかったが、意見をお互いに言いあえてとても楽しかった。また機会があったらやりたい。【八戸】
- やはり「人の英語を聞き取る」力に関して課題があると感じた。zoom を使ったディベートだったことも原因にはあるが、人が話す英語の単語一つ一つを聞き取る力が足りないことが顕著に表れていた。今後解決すべき課題ができた。【八戸聖ウルスラ学院】
- 英語で伝えるのも難しかったです、自分の意見じゃない方の立場から意見を考えるのが難しかったです。【田名部】
- 回線の都合により、上手くききとることが出来なかったり、相手に伝わりづらくなってしまったのが残念です。初めてのディベートの大会で緊張しましたがとても楽しかったです。【青森】
- 色々な社会情勢について考えまた意見を述べるという経験ができて大変良かったです。このディベートで自分の問題点や改善点を知ることができました。今日見つけたこと、ほかの人の良いところなどを参考に今後の生活に活かし、来年も大会に出場したいと思いました。【青森明の星】

エキシビジョンディベートに出られたみなさん

- PM —— さん (青森高校)
LO —— さん (八戸高校)
MG —— さん (青森明の星高校)
MO —— さん (八戸聖ウルスラ高校)
LOR —— さん (八戸高校)
PMR —— さん (青森南高校)



ベストチーム賞

- 1位 青森南高校 A
- 2位 青森南高校 B
- 3位 八戸高校 B
- 4位 八戸聖ウルスラ学院高校 A
- 5位 八戸聖ウルスラ学院高校 B
- 6位 青森明の星高校 A
- 7位 青森高校 A

ベストディベーター賞

- さん (青森南 A)
- さん (八戸ウルスラ学院 B)
- さん (八戸 B)
- さん (八戸ウルスラ学院 A)
- さん (青森明の星 C)
- さん (八戸 A)
- さん (青森南 B)
- さん (青森南 B)
- さん (青森明の星 B)
- さん (青森明の星 A)
- さん (青森 A)
- さん (青森 A)

POI 賞

- さん (青森南 A)
- さん (八戸聖ウルスラ学院 A)
- さん (青森 B)
- さん (田名部)
- さん (青森明の星 A)
- さん (青森 B)

PDA 兵庫県立神戸高等学校即興型英語ディベート 体験会

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2020年7月28日（火）13:00-15:30

会場：兵庫県立神戸高等学校（Zoom を用いてオンライン開催）

参加者：生徒 14 名、教員 1 名

ジャッジ：PDA スタッフ、PDA 認定教育ジャッジ

助成：駐大阪・神戸アメリカ総領事館、公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

POI (point of information: ディベート中に質疑応答をリクエストするルール) の練習が行われたのち、早速ディベートの開始です。



準備時間



画面向こうにいるジャッジに向かってスピーチ

ディベートが初めての体験の生徒が大半で、最初の論題が発表された後、チーム分け、役割分担、スピーチの仕方に苦労しました。初めは緊張した面持ちで説明を聞いていた生徒達も、第1ラウンドが始まると準備時間内にスピーチシートなんとか作成して、自分たちの言いたいことを説明することができました。



R2 スピーチ



ジャッジからのフィードバックを受ける様子

第2ラウンドでは生徒たちも要領をつかみ、はじめのラウンドと比べ、自分の意見に自信をもって話す様子から明らかな成長が見られました。接続不良で発話が難しい中、全員が2ラウンドを実践し、今後のスピーチ力、論理力の上達に向けての改善しようという姿勢がアンケートからも伺えました。

参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・自分の英語のできないところや、ディベートの方法やコツなどが知れてよかったです
また、参加したいと思いました。
- ・自分の考えを英語で表現する難しさを知りました。
- ・ジャッジの方に本格的にスピーチを見てもらえて自分の課題がよく分かりました。よかったです。
- ・先生方から自分に足りていなかった点や自分たちの良かった点を教えていただけて今後ディベートをするときだけでなく、学校生活でも生かせるような意見をいただけて、嬉しかったです。
- ・即興ディベートは考える時間がないのでとても緊張しましたが、自分の考えを話す貴重な経験ができてよかったです。
- ・新1年生と共にディベートができて斬新な考えをいっぱい伺えたので楽しかったです。
- ・最初は全く何を話すべきかわからず、とても戸惑いました。でも、チームで話題に対して話し合うことや、なんとか英文にすることが楽しく感じられるようになってきました。まだまだ詰まってしまうので、更に経験を積んでいきたいと思います！
- ・もっと経験を増やして自分の考えを表現できるようになりたいと思った。
- ・日頃の英語の授業でディベートをすることはあまりないので、普段出来なかった経験ができたことでより自分に自信が持てた。
- ・英語で発信することが新鮮で楽しかった。相手の意見を聞き取って、反論するのが難しかった。
- ・自分の持っている言葉で考えを伝える機会がなかなかないので、今回のような経験ができてよかったです。とても楽しかったし、もっと使える言葉を増やしたいと思いました。ありがとうございました。
- ・初めてディベートに参加し、勉強になりました。
- ・とても楽しかったです。
- ・またやりたいです。

ベストディベーターに選ばれた皆さん

■■■■ さん
■■■■ さん
■■■■ さん
■■■■ さん
■■■■ さん
■■■■ さん

PDA PDA 京都市立堀川高等学校即興型英語ディベート 体験会

一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

日時：2020年8月4日（火）13:00～15:00

場所：京都市立堀川高等学校（Zoomを用いたオンライン開催）

参加者：生徒7名、教員2名、PDA認定教育ジャッジ

助成：駐大阪・神戸アメリカ総領事館、公益財団法人日本財団、公益財団法人KDDI財団

ラウンド前に、Point of Informationの練習を行い、生徒の緊張もほぐれたところで早速1ラウンド目の準備が始まりました。論題「Japan should make voting compulsory. (日本は投票を義務化するべきだ。)」について、15分間の準備時間の中で、ディベート経験のある2年生が自ら進行役を担い、1年生からもアイデアが出るようサポートし、チームメイトと積極的に意思疎通をはかる姿が見られました。ディベートが始まると、若者の政治への関心を高める必要性、ランダム票が増える問題、SNSを選挙活動に活用する代案など活発な議論が交わされました。ラウンド実践を通して、各スピーカーの役割やスピーチ構成の理解を深め、2ラウンド目です。論題「School summer holidays should be shortened. (学校の夏休みは短縮されるべきである。)」では、ジャッジからのフィードバックを早速反映したスピーチの応酬でした。宿題無しの短縮夏休みが提案され、そのメリットが説明されると、スウェーデンを例に長い夏休みのメリットを、更には手元にあった夏休みの計画書カメラに見せ、生徒の計画能力も高まります、と説明する場面もありました。「説得力のある論理的なスピーチを組み立てる難しさを感じた」、「英単語が出てこないもどかしさを感じたが、このもどかしさを英語学習のモチベーションにしたい」という生徒の声に、相手により伝わりやすいスピーチができるようになりたい、という前向きな気持ちが画面の向こうのジャッジにも伝わってきました。生徒の皆さんのオンラインディベートへの対応力の高さ、分かりやすく伝えるための柔軟な発想や機転が光る、ディベート体験会となりました。



参加者の声（アンケートより抜粋）

- 1ラウンド目と2ラウンド目で自分の成長を感じられて、とてもよかったです。
- 英語でディベートをちゃんとしたのは初めてだったけど、英語が話せると楽しいな、と実感できました。
- 去年関西交流大会に参加して実力の差を痛感したが、今回の講習でも足りない部分を実感して、悔しさと共にそれを克服する楽しみを感じられた。とても勉強になりました。今後に活かしていきたいです。
- 最初は緊張していてできるか不安でしたが、実際やってみてアドバイスもいただいて、自信にもつなげることができ、参加してよかったと思いました。
- 思っていた以上にアタフタして、難しかったし、自分の英語力の乏しさと即興の難しさをひしひしと感じました。でも、英語に関する関心がとても強くなり、モチベーションにつながりました。
- 英語がスムーズに出てこないもどかしさが、これからの英語を勉強するモチベーションになりました。
- 言いたいことを言い切ることができて、とても楽しかったです。



ベストディベーターに選ばれた皆さん（順不同）

さん
さん
さん



PDA大阪府立北野高等学校即興型英語ディベート 体験会

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

日時：2020年8月4日（火）13:00-15:30

場所：大阪府立北野高等学校（Zoomを用いたオンライン開催）

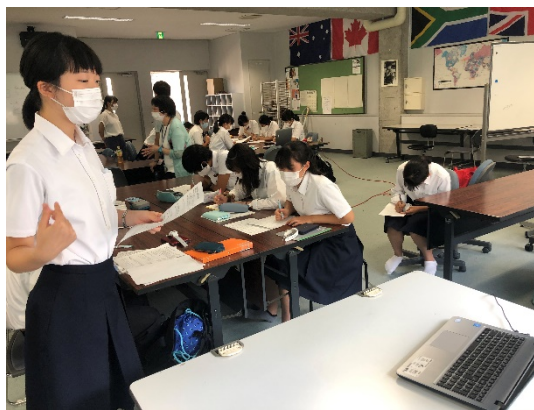
参加者：生徒26名、教員5名

助成：駐大阪・神戸アメリカ総領事館、公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI財団

1年生22名、2年生4名の計26名の生徒が即興型英語ディベート体験会に参加しました。全員がマスク着用ではありましたが、ラウンドがはじまると最初から各テーブルから堂々としたスピーチを画面越しのジャッジに向けて展開していました。そして2ラウンド目ではジャッジからもらったアドバイスを早速、自分のスピーチに盛り込むことが出来ている生徒が多く見られ、POIが飛び交う活気のあるラウンドになりました。英語科の國里先生より、これからもどんどん指導やサポートをしていくので皆さんしっかり練習を積んでさらにディベートの腕を磨いていきましょう！とのメッセージがありました。昨年参加した先輩からの激励のメッセージもあり、多くの生徒が今後さらに上達したいという刺激を受けたようでした。



準備時間



画面越しのジャッジに向けスピーチ



飛び交うPOI（質疑応答）



ディベート終了後のエア握手

参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・難しいけどわくわくしました。
- ・自分たちで考えた意見の浅さや、矛盾があったことも知り、とても有意義な時間だったと思っています。
- ・最初は話せるか不安でしたが、自分も思ったより話せて楽しかったですし、英語で討論するのも楽しかったです。
- ・語彙力のなさを痛感しました。もっと単語の学習を頑張りたいと思います。
- ・初対面の方とチームメイトとして協力するのも今までにはない良い経験になりました。
- ・自分のしたアウトプットを審判が教えてくれるのは、効率よく学べる方法だと思うし、切迫力や緊張感なども申し分なかった。北野だけでなく色々な学校の人と交流して、インスピレーションをもらい、自分の良い糧にしたいのでまた機会があるときは是非参加したい。
- ・最初、言いたいことがオンライン越しで伝わっているか不安だったが審判の人が優しく「伝わっている」と仰って頂いて人に画面越しでも自分の熱が伝わるのが嬉しかった。論理的な議論が出来て、良い経験になった。
- ・普段あまり英語を話す機会がないのですが、もっと英語が上手になりたいと思い、参加することを決めました。海外経験はゼロで、ディベートも全くの初心者ですが、同じチームの人とサポートし合っで楽しむことができました。またやってみたいと思っています！
- ・まだまだ論理的に話すことは難しかったけれど、参加する前よりは英語で自分の考えを話すことができるようになったと思います。経験を積んで、わかりやすく伝えられるようになりたいです。
- ・切迫感、緊張感が実際に体験することで感じられたから。
- ・不安もあったけど楽しかったし、ジャッジの人からもアドバイスをもらえてすごくいい経験になった
- ・みなさんの英語力に圧倒されたり、自分の英語力のなさががっかりすることもありましたが、いい経験ができました。機会があればもう一度してみたいです。
- ・英語を話す機会があまりない中、貴重な経験ができ、とても良かった。周りの人たちの語彙力や文章を組み立てていく力の高さにかなり刺激を受けた。ジャッジの人からアドバイスを頂けたのも嬉しかった。

ベストディベーターに選ばれた皆さん

R1

さん (1年)
さん (1年)
さん (1年)
さん (1年)
さん (1年)
さん (2年)

R2

さん (2年)
さん (1年)
さん (1年)
さん (1年)
さん (2年)
さん (1年)
さん (1年)

PDA 奈良県立奈良高校即興型英語ディベート 体験会

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2020年8月5日（水）13:00-15:30

会場：奈良県立奈良高等学校

参加者：生徒39名、教員3名

ジャッジ：PDAスタッフ、PDA認定教育ジャッジ、名古屋工業大学

助成：駐大阪・神戸アメリカ総領事館、公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

今回は、「科学英語講座」ということで、7日に控えたシンガポールとのオンライン交流の事前練習も兼ねての体験会となりました。まず、中野校長先生より、英語での即興型ディベートは今後の活動に活かすことができるものです。頑張ってください。と挨拶が行われ、早速第1ラウンドが始まりました。



校長 中野先生よりご挨拶



準備時間に作戦を練っています

ディベートが始まると、しっかり相手の話を聞き、自分の主張を伝えることができました。ディベートが終わるとエアー握手がかわされました。ジャッジ実践を行った生徒も反論や再構築を吟味し、勝敗の理由を説明することができました。



堂々とスピーチをしています



お互いの健闘を称えてエアー握手

続く第2ラウンドでは第1ラウンドで受けた各テーブルジャッジからのアドバイスを参考に、理由づけや具体例などを意識しながら準備を行いました。ディベートが始まると、第1ラウンドから成長したスピーチを披露しました。ラウンドが終わるとジャッジの先生からのコメントを真剣に聞く姿が見られました。



iPadの向こうのジャッジに向かってスピーチ



ジャッジの目を見てスピーチ

ジャッジからのフィードバック

最後に第2ラウンドでベストディベーターに選ばれた生徒より「1回目は手探りでのディベートだったが、2回目ではどのように進めればいいのかなどがわかり、より楽しめた」、「英語は苦手だが、苦手だからこそやる意味がある」と感想を述べ、奈良高校でのディベート体験会の幕が閉じました。



参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・自分の言いたいことを英語に直して発表するのは難しかったけど、またやりたいと思った。
- ・日本語でもすぐに意見をまとめるのが難しいものを英語でするといのはやはり難しいけれど、実際の英会話は相手の話を聞いたうえで応答なので、必要な力だなと実感させられました。
- ・普段英語を話す機会はあまりなく、英語力の向上に効果的だと身をもって感じました。短い時間ですが、脳をフル回転させて考えるのは楽しかったです。
- ・頑張っってリスニングをするが、聴き取れないワードがあると、焦って簡単な文も聴き取れなくなってしまった。この経験を活かして、少し聞き取れなくても焦らずに他の文から聞き取れなかったところを推測する力を身に着けようと思った。これは受験にも役立つことであり、貴重な経験が出来たと思う。
- ・普段ではできない、英語でのディベートをできて、いい経験になった。自分が主張したいことを英語で即興に話す経験は今後にも生きていくと思うので、ディベートに参加出来てよかった。
- ・僕は、苦手教科が英語であり積極的に英語学習に取り組んでこなかったけど、初めて英語が楽しいと思えた。素晴らしい経験の場を提供していただきありがとうございます。
- ・1回だけでは変わらないとか意味ないとか下手だからとか思っってあまり乗り気ではありませんでした。考えていた通り、聞く、話す、考えるの同時作業が難しかったですが、担当してくださった先生がこんなふうと言ったらいいよっって詳しく言っってくれて不安な気持ちも薄れて、みんなでがんばろう！と楽しい気持ちが大きくなりました。
- ・また、やりたいと思えるほど楽しかったです。
- ・人前で話すのは緊張しました。しかし、限られた時間の中で意見を考えるのはやりがいを感じました。また、良い意見を持っっいても、順序立てて話さなければ説得力に欠けると思いました。構成を考へて話すことの大切さを実感しました。
- ・英語で反論したり自分の意見を言うことはすごく難しかったですが、英語をもっっ話せるようになりたいなと思っっいましたし、すごく楽しかったです。
- ・今日初めて即興型英語ディベートを経験し、緊張して言ったいことが抜けてしまっって間が持たなかつたこともありましたが、自分が持てる英語力や構文力を駆使して相手に考へるを伝えることの楽しさを学べました。
- ・時間的に非常に厳しかったが、これを続ければ英語力がかなり伸びそうだと思っった。